

On the Usages of V-tagaru Preceding Nouns :
though comparison to V-tai N

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027170

名詞に前接するタガルの用法に関する一考察

—VタイNとの比較を通じて—

熊井浩子

【要旨】

本稿ではコーパス等を用いてVタガルNの形で用いられるタガルの用法や機能をタイと比較して考察した。その結果、タガルは、Nが主体である場合が半数で、マイナスの意味を含意する表現、様子や程度・頻度の高さや激しさ、一般的・恒常的な状況であることを表す表現や比喩・対比の表現などとともに用いられ、①主体の持つ特徴・傾向を際立たせることによる、特徴づけ・類型化を通じた評価、②実現の難しい事柄に対する強い継続的希望・志向に対する評価及び③動作主体のマーク、などの機能を有し、④無意志動詞を用いて主体の恒常的な傾向を表すという派生的な用法を持つことも明らかになった。これに対しタイは、Nが対象を表すことが多いこと、希望・願望の表現以上の特別な含意や評価は含まれず、一人称ではなく不特定の人を主体として、指示や情報提供などの機能を持った文に多く用いられていることがわかった。また、タガルの約半数がタイに置き換え可能であるのに対し、タガルに置き換え可能なタイは1割に満たず、タガルの用法上の制約が非常に強いこともわかった。

【キーワード】 タガル タイ 連体修飾 評価 主体マーク

1 はじめに

「YNU書き言葉コーパス（以下、「YNUコーパス」）は、おおむね上級以上の日本語力を持つ韓国語・中国語を母語とする日本語学習者各30名及び同年代の日本人学生30名の作文から収集したデータであるが、タスクの達成度から各言語話者をさらにそれぞれ「上位群」（10名）、「中位群」（10名）、「下位群」（10名）に分けていることも特徴の一つである。

筆者は熊井（2019）において、このYNUコーパスのデータ等を用いて日本語学習者に見られる希望・願望表現、ホシイ・タイの使用上の特徴を明らかにした。その結果、動詞の自他や使役・授受表現の間違いやタイ・ホシイの混同、自分の行為でなく結果として変化に影響を与えた場合にタイを用いた誤用のほか、タガルの用法のむずかしさや第三者の希望を表す場合にもタイが使える場合もあることに起因する間違い・不自然な表現も観察された。

タイやホシイは他の感情・感覚を表す形容詞と同様、肯定型では話し手・書き手の、疑問文では相手の希望・願望を表す。そのため、主体が第三者の場合に用いることができず、その場合にはVタガルなどの形式を用いることになるが、一方「ので」「から」「て」や連体修飾の場合には第三者が主体であっても用いることができる場合もある。また連体修飾ではVタイ／タガル／タガッテイルNなどの微妙な違いも問題になる。しかし、そのような人称の制約緩和のルールやニュアンスの違いも含め、タガルなどのガルの用法をそれほど

詳しく学習しない場合も多く、十分使いこなせない例が少なくない。

例えば閉鎖が検討されている町の病院の存続を求める新聞への投書を書くというタスク6で、タガルを用いた以下のような用例が見られた。

- (1) ○○市は自然が美しく、静かな町で、多くの人たちが住みたがる町でよく知られています。【K004】上位（「YNUコーパス」より）
- (2) 特に婦人科やりハビリなどのサービスが受けなくなったら、○○町に住みたがる人々はもうなくなってしまうだろうし、これから産まれてくる赤ちゃんやりハビリが必要なお年寄りに思い及ばないくらいの被害が思われます。【K005】中位（「YNUコーパス」より）

(1) については、「～で知られている町」は「で」に先立つ部分はその町を有名にする名産物や景色などの場合はいいが、この場合は町がどんな特徴を持っているかを表す「として」を用いたほうが自然となるため、(1') のように改めた上で考察した。

- (1') ○○市は自然が美しく、静かな町で、多くの人たちが住みたがる町としてよく知られています。

連体修飾節でも条件によっては第三者が主体であってもVタイNが可能となる場合もあるが、学習者はタガルの持つ機能やニュアンスを考慮せず、主語が「多くの人たち」で第三者であるため、タイは使えないと考えてタガルを用いた可能性も否定できない。

また、タガッテイルがその場での観察に基づくのに対し、タガルは一般的な傾向・習慣を表しているとされ、白川（2001）でも、「～がる」は(3) aのように習慣など恒常的な場合にのみ使われ、一時的な場合にはbのように「～がっている」が使われると述べている。

- (3) a. ひろし君は一人になるとすぐ寂しがる。
b. ひろし君は寂しがっている。

(1)(2) は、主体が「多くの人たち」「人々」で、一般的傾向を表すことからタガッテイルではなくタガルを用いるのが適当であることになるし、「自然が美しく、静かな町で」の部分「住みたがる」理由として受け取られることから、文法的にはとりあえず問題ないと思われるが、連体修飾として用いられた(1') がなんとなく座りが悪い印象があるのはなぜであろうか。

そこで本稿では、Vタイに接尾辞ガルが付き、それが連体修飾として名詞を修飾する構造をVタガルNで表すこととし、国立国語研究所「中納言日本語書き言葉コーパス」及び「教えてGoo」等の用例を基に、このVにどんな動詞が用いられるのか、後接する名詞NはVタガルとどのような意味関係にあり、どのような名詞が多く使われているのか、また、どのような統語的・表現的な特徴が存在するのか、そして、そもそもVタガルNがどんな

意味・機能を担って用いられるのか、さらには、VタイNとの違いは何か等について考察する。なお、連体修飾に限らず、タガルが名詞に前節する例も含めて考察することとする。

2 タガルの使用例

韓（2011）は、ガルは話者が対象となる人物が示している外的な様子を、総合的な知識に基づいてその人物の内面と関係付けてとらえ、それが対象となる人物の内面と関係づけて描写することを表すとし、「XがAがる」という表現には、表1のような3つの用法を観察することができるかと述べている。

表1 韓（2011）

用法1	話者が、対象となる人物Xが示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、それが、対象となる人物の「Aである」という内面の表出であると描写する。
	話者が、対象となる人物Xの「内面」に隠されたもう一人の人物X'を見ており、そのX'の示している外的な様子を総合的な知識に基づいてXの内面と関係付け、やはりXの「Aである」という内面がそこに表れているととらえている。
用法2	話者が、対象となる人物Xが示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、それが、対象となる人物の「Aであるふりをしよう」という目論見の表れであると描写する。

さらに韓（2012）は、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ（2009年度版）等で収集した用例を分析した結果、現代日本語における「～がる」の統語的な特徴を以下のように5つ挙げている。

1. 対象となる人物の動作・動き、表情・態度などの外的な様子を表す表現を付帯状況として伴う文。
2. 対象となる人物が発した言葉など外的な様子を表す表現を引用表現として伴う文。
3. 「～から／～ので／～ため」のような原因を表す表現、「～と／～たら／～ば」のような条件を表す表現、「～のに／～くせに」のような逆接を表す接続表現を伴う文。
4. 「とても／極端に／一途に／ほどに」のような程度を表す副詞的表現、「しきりに／～たびに／珍しく」のような頻度を表す副詞的表現が共起する文。
5. 「最近／次第に～がるようになる」のように「今」の対象となる人物の外的な様子をその人物の「以前」の外的な様子に対比する文、「最初／昔／以前～がっていたが、…」のように「以前」の対象となる人物の外的な様子をその人物の「今」の外的な様子に対比する文。

このように、ガルは主体が第三者であれば無条件で用いられるというのではなく、対象となる人物の動作・動きや表情・態度や言葉などの外的な様子を表す表現や原因・条件、頻度や以前との対比の表現など、特定の表現を伴うのが特徴である。また、タガルには「する、やる、話す、言う、語る、見る、聞く、行く、出る、帰る、乗る、食べる、求める、

知る、目立つ」という動詞が多く観察されたとする。

さらに韓（2010）ではガルが用いられる文脈について、以下のようにまとめ、日本語教育においてガルが適切な文脈の中で提示されていないと指摘している。

表2 韓（2010）「～がる」が使われる文脈^{注1}

「～がる」が使われる文脈	例文
だだをこねる 【「たい」「ほしい】】	(6) 弟はお菓子を見ると、いつも欲しがる。 (7) 私がお菓子を食べた <u>が</u> ると、祖母はすぐ買ってくれる
普通（周りの人）と違った様子である	(8) あの子は、ゲームをほしが <u>ら</u> ない。 (9) 私だけが面白 <u>が</u> っていたのか。
大したことはないのにそのような振り舞いをする	(10) 彼女はちょっとしたことで <u>す</u> ぐ怖 <u>が</u> る。 (11) 彼女は何でもやりた <u>が</u> る。
「相手の知っている、対象となる人物に対しての情報」と「対象となる人物の実際の内面」との食い違いがある	(12) 昨日、お母さんに会ったけど、寂し <u>が</u> っていたよ。 (13) 私は今とても苦し <u>が</u> っています。

韓（2010,2011,2012）はタガルも含めたガルについての論考であるが、本稿ではタガルに焦点を当て、連体修飾など、名詞の前に用いられるタガルもこれと同様の統語的特徴を有し、同じような文脈の中で用いられるのか、さらに、先立つ動詞も韓（2011）の指摘するような傾向を示すのかなど、VタガルNが文末のガルとは異なる特徴を持つのかを考察する。

村上（2014）は、連体修飾における感情形容詞と被修飾名詞の意味関係を [対象]・[主体]・[とき]・[内容]・[表出物]・[相対補充]・[その他] の7つに分類している。[対象] は（4）のように、被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を引き起こすもので、被修飾名詞は人・動物・事柄のいずれかである。[主体] は、その感情の持ち主であることを表し、被修飾名詞は人が組織となる。（5）がその例である。さらに、[とき] は、（6）のように、被修飾名詞が感情形容詞によって表される感情の存在するときを表すという関係で、被修飾名詞は、「とき」の他、「時代」「時期」「月」や「夏休み」などで、ある時や期間が何らかの感情を引き起こす可能性がある場合には [対象] としての解釈も可能であるとされる。

- (4) 目を閉じると、悲しい思い出だけが浮かび上がってくる。(例・下線は村上)
- (5) 正確に言えば、大学の卒業生をほしい政府機関や国営企業は、それぞれ教育部に専攻別の人数を要求する。(同上)
- (6) どんなつらい時も闇の先には必ず光がさしてるよ。(同上)

また、[内容] は修飾部が被修飾名詞の内容を述べるものであり、被修飾名詞は（7）のように気持ち・気分、感覚などがほとんどであるが、「たち」「性分」などの心理的な特性を意味する語や「現実」などもある。[表出物] は、（8）のように被修飾名詞が「顔」「声」等であり、これらの感情の主体が感情形容詞で表される感情を持っている時に、感情の主体から発せられるものという関係である。

- (7) 「使ってくれますかねえ」不安な気分になりながら私はいう。(同上)
 (8) (前略) 殴られても苦しい顔を見せない。(同上)

表3 連体用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味的關係(村上より)

統語関係	意味関係	例	被修飾名詞
ウチ	[対象]	うれしいプレゼント つらい体験 迷惑な男 懐かしい人	物でも出来事でも人間でもよい
	[主体]	(一人で過ごすのが) つらい人 優秀な学生が欲しい企業	人間または組織
	[とき]	一人ですぐすのがつらい時 つらい日曜日	時や期間を表す名詞
ソト	[内容]	つらい気持ち 冷たい感覚 人に迷惑をかけるのが嫌な性分 人形柄がどこか懐かしい感じ	「気持ち」「感覚」等 「性分」「感じ」「現実」等
	[表出物]	つらい顔 つらい声	「顔」「声」等、人間が表出するもの
	[相対補充]	彼女に会うのがつらい理由	「理由」「合間」等
	[その他]	つらいはず つらい限り	「はず」「限り」等

[相対補充] は、寺村(1975)の修飾部が被修飾名詞の「本来的に相対する概念の内容を表す」もので、(9)がそれにあたる。[その他] は、(10)のように被修飾名詞が「はず」「限り」「ぶん」等のいわゆる形式名詞の場合である。

- (9) ケビン山崎は忙しい合間を縫って、頻繁にアメリカへ足を運んでいる。(同上)
 (10) (前略) 自分の言葉で感謝の気持ちを表現した礼状のほうを受け取った側にはもつと有り難いはずです。(同上)

寺村(1975)は、節が名詞句を修飾する場合を、被修飾名詞句が格助詞などを付けて修飾部の用言と結びつけることができるような関係を、その用言、あるいは修飾部全体に対して持っている、「ウチの関係」と、被修飾名詞が修飾部の補語にならない、「ソトの関係」とに分類しているが、[対象]・[主体]・[とき]がこの「ウチの関係」、[内容]・[表出物]・[相対補充]・[その他]が「ソトの関係」にあたる。

村上(2014)が扱っているのは感情形容詞と被修飾名詞の意味関係であるが、助動詞タイも、肯定文において第三者を主語とすることができない、イを取って接尾辞ガルをつけて動詞とすることで第三者にも用いることができる、などの点で感情形容詞と共通した性質を持っている。そこで本稿では、感情形容詞に準ずる性質を持つタイ及びそれにガルが付いたタガルを村上(2014)に従って分類し、それぞれの特徴について考察することにする。ただし本稿では、修飾関係のみならず、形式名詞も含め、Vタガルの次に名詞がくるものを全て考察の対象とすることは先に述べたとおりである。

3 タガルの使用条件

3.1 被修飾名詞

VタガルN、全290例のうち、最も多かったのが「主体」で、約半数を占めている。続いて、名詞が形式名詞である「その他」が21%、「内容」が19%とそれぞれ2割前後、あとは「対象」が約6%で、「とき」や「表出物」「相対補充」はそれほど多くないことがわかる。

表4 タガルNの意味関係

修飾関係	意味関係	頻度	割合
ウチ	対象	17	5.9%
	主体	144	49.6%
	とき	4	1.4%
ソト	内容	54	18.6%
	表出物	6	2.1%
	相対補充	4	1.4%
	その他	61	21.0%
	計	290	100%

主体144件のうち、最も多かったのが、(11)のように、人・人間・人たち・奴などの「人」を表すもので57件、「日本人」など、国や地域を指定した例3件を加えると60件、41.7%となる。続いて多かったのが、(12)のように「運転手さん」「上司」「リスナー」「浪漫主義派」など、特定の職業・社会的集団や属性を表す名詞24件、男性・女性などの性別を表す名詞が14件、オヤジ・子供・思春期の少女などの年齢層を表す言葉13件、母や父、子供などの親族関係を表す言葉が12件、(13)のような固有名詞が11件であった。そのほかには、国や組織・体制が5件、動物が3件、その他としては「自分・自分自身」が各1件などであった。約7%にあたる固有名詞以外は何らかのグループ・集団を表す名詞がほとんどであることがわかる。

- (11) アンタ馬鹿？知りたがる人間をじらして遊ぶのは、人類共通の娯楽の一つじゃない^{注2}。
- (12) 「小泉総理はもうダメ」と決めつけたがるマスコミまでまきこんで、カッコよさを〈再生産〉するしかけをつくってきたのだ。
- (13) ダドリーは妻をアピングドン近くの親戚の家に預けて、自分を独り占めしたがるエリザベスのためにもっばらウインザー宮に釘づけの身となっていた。
- (14) 上の写真はお菓子を食べたがるアレックスと、そのおかしです。

ではなぜグループや集団を表す名詞や固有名詞が多く用いられているのであろうか。前者については、タガルNの形で、Nというグループや組織に共通して当てはまる特性について言及している場合が多い。一方、固有名詞については、その人固有の性格を表す場合と(14)のように一時的な願望を表す場合があった。

[その他]については、61件のうち、35件が、「もの」「モノ」で、(15)(16)のように、主に文末で使われている。このモノはいわゆる形式名詞で、日本語教育ではモノダとして、その用法について『日本語文法辞典』では、以下の1～4の4つの用法が挙げられているが、タガルNとともに用いられているのはすべて1の用法で、真理、一般的にいわれていること、本来の性質などについて、ある種の感慨を込めて述べるのに用い、訓戒とすることもであると説明されているものである。タガルNの12%がこの本来の姿を意味する用法であることになる。この中には、それを批判的にとらえている場合も多かった。

(15) よく勉強している医者ほど、よく説明したがるものである。

(16) 宗教とは、小うるさいことを、命令したがるものだ。

『日本語文法辞典』PP594-596より

1 …ものだ〈本性〉

2 …〈感慨〉

a …ものだ

(3) この町も、昔と違ってきれいになったものだ。

b …よく(も)…ものだ

(2) こんなむずかしい問題が、よく解けたものだ。

3 V-たいものだ

(1) そのお話はぜひうかがいたいものです。

4 V-たものだ

(1) 学生のころはよく貧乏旅行をしたものでした。

あとはワケが10件、コトが8件、タメとハズが各2件、クセ・トコロ・必要・点が各1件であった。ワケのうち、肯定型で用いられたものは6件、『日本語教育辞典』では〈独話型〉と〈対話型〉に分けられているが、本稿では〈理由〉が3件、〈納得〉が2件、〈言いかえ〉1件であった。あとの4件は「わけではない」という否定で用いられている。このように、ワケの中でタガルとともによく用いられる特定の用法といえるものはなかった。

『日本語文法辞典』PP638-641より

【わけだ】

1. …わけだ〈独話型〉

a …わけだ〈結論〉 b …わけだ〈言いかえ〉

c …わけだ〈理由〉 d …わけだ〈事実の主張〉

2. …わけだ〈対話型〉

a …わけだ〈結論〉 b …わけだ〈言いかえ〉

c …わけだ〈理由〉 d …わけだ〈納得〉(後略)

コトは名詞化が3件、そういう可能性や機会がないことを表す「ことはない」が2件、「こ

とでしょう」2件、「こともあり」1件と、事情という意味を表すコトが計3件であった。[内容]については、54件のうち、「性質・性格・本性・癖」など、その人の本来の気質や性癖を表す名詞が17件、「気持ち・あせり・衝動」など、気持ちや感情を表すものが11件、「傾向・タイプ・方」などの傾向を表すものが21件であった。また少数ながら「議論」「ロジック」などの思考を表すものもあった。村上（2014）によれば、被修飾名詞の意味関係が[内容]を表す場合、1,830件中「性分」「感じ」などの10例を除いてあとは全て「気持ち」等であったということであるが、タガルとともに用いられる名詞は傾向や気質を表す語が多いという点で、感情形容詞やタイとは異なる性質を持っていることがわかる。これは、気持ちが一時的であるのに対し、傾向や気質は長期的・恒常的なものであるためであろう。

[対象]については、17件中約半数の8件が「こと」、「もの」が2件で、あとは「官職」「場所」「証拠物件」などさまざまで、特に共通の性質は見いだせなかった。[時]・[表出物]・[相対補充]についても頻度が低く、特別な傾向は見られなかった。

一方、VタイNについては全510例のうち、最も多かったのが[対象]で、約45%、続いて、Nが形式名詞である[その他]が20%、[主体][とき][内容]が10%前後、[表出物][相対補充]はごくわずかであった。これは、タガルNのほぼ半数が[主体]であったのと同対照的である。タガルの方は、「たがる人」のように、人について述べるときに多く用いられるのに対し、タイNは、人について述べるよりは「たい物」のようにある動作・行為の対象について述べる際によく用いられているという点は非常に興味深い。

表5 タイNの意味関係

修飾関係	意味関係	頻度	割合
ウチ	対象	232	45.4%
	主体	63	12.4%
	とき	53	10.4%
ソト	内容	53	10.4%
	表出物	1	0.2%
	相対補充	4	0.8%
	その他	104	20.4%
	計	510	100%

[対象]として用いられている名詞は、「こと」が95件、41%と最も多く、次いで「もの」が22件で約1割となっている。また、「こと」を含むコトを表す名詞は114件でほぼ半数を占め、「もの」を含むモノを表すものは84件で36%、あとは人や動物を表すものが13件、場所や自治体が20件、時を表すものが1件であった。

また、232件中、92件、約4割が(17)(18)のように機器やシステム・手順の説明や指示・アドバイスの機能を持って使われている文であることがわかる。タガルの場合にはそのような傾向は見られなかった。

(17) 改行したい部分に〈BR〉と入れると改行されます。

- (18) 希望によってかなり違うので、詳しくは、自分の受けたい自治体のHPの採用ページを確認してください。

[その他]では、104件中、(19)(20)のようなモノやモンが54件と、過半数を占めている。全て「もの」や「ものだ」のような文末で用いられており、モノダの3番目の強い希望を表す用法である。

- (19) いくつになっても元気ではつらつとした人生を送りたいものです。
 (20) そのお話はぜひうかがいたいものです。

タガルについてもモノ・モンが用いられていたが、[その他]で使われている61件のモノのうちの35件が、一般的な性質として述べるモノダの1番目の用法であり、タガルN全体の12%であることは前述のとおりであるが、同じモノであっても、タガルモノが傾向、タイモノは希望を表していることが両者の大きな機能の違いを示唆しているといえるであろう。

次に多かったのがトコロで22件であった。トコロはVタイトコロやNノトコロのように、動詞や名詞とともに用いられる場合が多いが、Vタイとも共起する。本調査では、12件は(21)のようにその後「だが」などの逆接の表現を伴っている。10件は逆接の表現はないが、そのうち9件が(22)のようにスポーツや株などの流れの予想の場面で用いられていた。このようにVタイトコロはいろいろな状況から流れを希望的に予測したり、希望はあるが実現が難しい場合などに用いられていることがわかる。

- (21) 本当は栗のムースを食べたいところだったが、そんな贅沢を言っている暇はない。
 (22) キングジョージに向いたい(原文ママ) みたいだし、ここは勝っておきたいところ。

これ以外では、「わけ」9件、「ため」が6件、「放題」5件、「はず」が3件、「こと」は(23)のような名詞化が2件、「こともある」が1件で計3件などとなっている。

- (23) (前略) 仕事中の体調をよくしたいこと等のお伺いをたてたのである。

Nが[主体]を表すものは63件、12%と少数ではあるが、そのうち、人を表す言葉が60件、そのうち「人・方・者」など、人の意味の名詞が49件であった。組織は「企業」1などであった。また、人の意味の49件中、40件、82%が相手に対する指示や勧めの機能を担って用いられている。それ以外の人を表す名詞11件中1件を加えると計50件となり、[対象]に加え、VタイNの名詞が主体の場合の実に8割がこの用法である点は注目に値する。このように、タイのあとの名詞が主体である場合には一人称ではなく、「人」などの不特定の人を主体として用いる用法が非常に多いことがわかった。

[内容]については、53件のうち、気持や感情が44件、思考が5件、その他が4件で、気質・性質や傾向を表すものは1件もなかった。気持ちや感情が圧倒的に多いことがわかる。

その人本来の性癖や傾向を表す名詞が多かったタガルとは対照的である。

〔とき〕については、用いられている名詞は「とき」が53件中35件、66%と最も多く、次いで「場合」が13件で、この2つで9割を占めている。さらに興味深いのは、(24)のような個別の状況についての説明も一部見られたものの、41件、77%が、(25)(26)のように、機器やシステムなどの使い方の説明や何らかの指示・アドバイスの中で用いられているという点である。〔対象〕の時には約4割であったから、それと比べても率が高いことがわかる。このうち、動作の主体が特定の相手である場合は2件のみで、39件は、一般の対象に対しての説明である。タガルの場合は〔とき〕の頻度も1%と低いという違いもあったが、このような特徴は全く見られなかった。

- (24) 彼女が周囲から自分のなかに閉じこもりたいときは、ソファの下で指を口にくわえて丸くなったりします。
- (25) 不要になったメッセージカプセルを削除したいときは、削除するカプセルをクリックしてから、かばんの受信簿の右上にあるごみ箱をクリックします。
- (26) どうしても最後に何か食べたいときは、エネルギーの低いお茶漬けにしておこう。

〔表出物〕〔相対補充〕はタガル・タイともに出現頻度が低く、両者の違いは特に見い出せなかった。

3. 2 タガルとともに用いられる動詞

全290例のうち、用いられた動詞は181種類であった。

韓(2012)によれば、タガルと用いられる動詞としては、「する、やる、話す、言う、語る、見る、聞く、行く、出る、帰る、乗る、食べる、求める、知る、目立つ」が観察されたということであったが、このうち、「する、やる、話す、言う、語る、見る、聞く、行く、出る、帰る、乗る、食べる、知る」は本データでも2回以上観察された。ただし、これらはタガル以外の形でも使用頻度の高い基本的な動詞であり、タガルとのみ特徴的に用いられる動詞であるとは言えない。逆に、韓で指摘されていた「求める」は1件もなかった。

一方、(27)のように、「なる、作る、会う、隠す、世話を焼く、束縛する、飛ぶ、見せる」は、韓の指摘はないが、本調査では3回以上の頻度で用いられていた。ただし、「やる、なる、する、行く、来る、見る、知る、出る、話す、言う、帰る、作る」は頻度が高いものの、それ以外は3から1回とそれほど多くなく、むしろ1回しか用いられていない動詞が148と半数以上であることから、頻度という点では特にタガルと多く用いられる特別な動詞があるというわけではないことになる。

しかし、動詞の語彙的な意味に注目すると、(28)のように「大風呂敷を広げる・エエかっこする・揚げ足を取る・束縛する」など、全体としてマイナスの意味を持つ動詞が72件、動詞自体はニュートラルであっても、(29)(30)のようにコンテキストとしてネガティブなものが41件、そのうちの約半数は(31)(32)のように「アドバイスする・教える・自分のことを語る・指導する」など、何らかの意味で相手より上の立場であること示そうとするような動詞、暴力的・高圧的な意味を含む動詞であった。このような否定的な意

味合いの述部は全体の約4割を占め、出現頻度が高いことがわかる。韓（2012）でもタガルとともに多く用いられるとされている動詞のうち「求める、目立つ」などもこれにあたる。

- (27) 秘密主義のダンナとダンナの親のことですが、ダンナが何でも隠したがる性格です。
- (28) 見栄を張りたがる名古屋人ならではの格言はその時代に教えられた。
- (29) 女の子同士って不幸を比べたがる子が多くないですか？
- (30) 料理が下手なのに作りたがる人ってどう思います？
- (31) 独身の女友達で、子育てについてアドバイスしたがる子がいます。
- (32) 攻撃に出たがる選手が多い。

表6 VタガルNに用いられる動詞と頻度

動詞	頻度	小計	
やる	14	142	
なる	13		
する	12		
行く 見る	9		
知る 出る	8		
話す/話をする	6		
言う 帰る 作る	4		
会う 隠す 聞く/聴く 世話を焼く 束縛する 飛ぶ/翔ぶ 見せる	3		
集める 威張る 語る 聞く(質問する) 強調する 比べる 結婚する 行動(を)する 仕切る 邪魔をする 食べる 使う 手に入れる 乗る 真似る/マネする	2		
相手にする 揚げ足を取る 集める アドバイスする 暴れる 歩調を合わせる 案内する いい募る 行かせる 家にいる 芸能界に入れる お金を入れる 隠栖する 歌を歌う 運転をする 女の子を産む エエかっこをする 楽な道を選ぶ 演奏する 大風呂敷広げる 教える 前面に押し出す 結果に陥る 思い通りにする 思う 坂をおりる 解決する 伝統に回帰する 回避する 買い物をする 変える 黒人を買う 犬を飼う かがむ かわかる 飾る 顔にかける 肩入れする 悲劇的に考える 記事にする 取材規制する きれいで片づけてしまう 議論する 空威張りをする 金額で換算する 金で解決する 決めつける 口出しする 口にする 区別する クレームをつける 企ててみる くる 敬遠する 結婚式を挙げる 誇示してみる 籠る 殺す 避ける さわる 指摘する してもらう 指導する 自分自身をしぼる 絞る パスポートを取得する そうする(主張する) 紹介する 白黒をつける 上手い汁を吸う 救う 統治と介入をする 背伸びする 征服する 説明する スポットを賣める 名刺に刷る 仲間の子のせいにする お世話をしてもらう 詮索する 阻止する 距離を保つ アイディアを出す 注文する つく 職業につく つなぐ 攻撃に出る 映画に出る テレビに出る 様子が外に出る 同席する 筋道ばかり通す 濃密に閉じる 飛び出す とる(盗る)可能性のほうをとる(選ぶ) 否定的な態度を取る 名乗る 名前を付ける 怠ける 並ぶ に似る 縫う 脱ぐ 寝る 飲み込む 飲む 入る 馬鹿にする 測る 計る はしゃぐ 働く 心理描写をする 保証する ポーズをとる 保存する レッテルを貼る 判断する 独り占めする 秘密にする 伏せる 蓋をする ふるまう ふれる 恩愛を施す 誉め称える 円を保有する 祭り上げる 記憶を曲げる 見栄をはる 移民を迎える 結びつける 命令する 関りを持つ 持ち込む ケツをもむ 赤ん坊を買う 盛り込む 宿る 辞める 優位にたつ 横取りする 家に寄る 律する 流入する 枠にはめる	1		
合計			290

文型としては、テモラウが2件、テシマウが1件のみで、あとは全て通常の動詞のます形であった。

一方VタイNでは、(33)(34)のように「言う/おっしゃる、やる、知る、聞く・質問する、見る/ご覧になる/拝見する、する、なる、行く、話す作る、食べる、使う 会う、隠す」などはタガル同様2回以上の頻度があったが、それ以外のものは出現しないか1度のみであった。タガルに多く見られたようなマイナスの意味の動詞や文脈によってマイナスの意味となっている表現は少なく、(35)(36)のようにニュートラルか、単純に動作を表すものが大半で、機能としては繰り返し指摘しているように情報提供や指示を表す文で使われていることが多いことがわかった。

- (33) 怪しい者じゃないです！と言いたい心境です。
- (34) 見たいこと、知りたいことを話し合って、たんけんメモをつくりましょう。
- (35) 口頭発表で書きたい内容を皆に伝えると、その作品の仕上げは宿題になります。
- (36) 例えば赤ちゃん用品を扱っている業者について調べたいときは、まず、職業名・サービス名一覧を開いてみます。

表7 VタイNに用いられる動詞と頻度

動詞	頻度	小計
言う／おっしゃる	37	
やる	33	
知る	26	
聞く・質問する	24	
見る／ご覧になる／拝見する	15	
する	12	
なる 行く	11	
書く	10	
作る 話す	9	
食べる	8	
使う 会う／お目にかかる／お目通りする	7	
読む	6	
避ける	5	
買う 調べる お願ひする／いたす 注意する＋気をつける 伝える 増やす 働く／勤める／仕事をする	4	
受ける 追加(を)する 削除する 確認する 譲る 連絡する／連絡をとる	3	
売る 隠す 帰る 住む 利用する 強調する 表示する 泣く 飲む 学ぶ 表現する 歩く 味わう 勤める 眠る 揃える 比較する わかる 一服する／煙草を吸う 消す／消去する 始める 覚える	2	319
甘える 企業収益を安定する 打つ 歌う 援助する 維持していく 訪れる 頂く 遊ぶ 頭を抱える いちゃいちゃする 醜いものを覆う 会得する 印刷する 言い返す 得る 部屋に移る 拝む いっしょにいる おさえる そう思う いたずらをしてみる 人生を送る エンジョイする エッチする 選び出す 生まれ変わる うち消す 教えてもらう 強度を上げる 理解と協力を得る 燃料を入れる お耳に入れる 距離をおく 飼う 考える 組む 組み込む 計算をする カットする 蹴る こじ開ける 改行する 結婚する 景気を良くしてもらう 頑張る 拒否する 感じている こらえる 勝っておく 書き込む 契約を解除する 梱包する 歓迎する クリアする 更新する 検索する 開運する 活用する 決める 消してしまう 書き止める程度にする 堅持していく 着こなしをする いい戦いを期待する 小躍りする 時間をかける 工夫をする 殺す 一品を加える 切る 拡大または縮小する 洗車する 使い方をする 散歩する 紹介する セックスする 説得する 推進する 信じる 射精までいく 権利を主張する ポケットに忍ばせていく 備えている 死ぬ 定型句を挿入する 晒す 嫉をする 従う 紹介する 過ぎず スキップをする 叫びかける 参考にする 送信する 参加する 進出する 目を背ける 対応をする 楽しむ 追及する 抵抗する クセをつける 頼む チャレンジする 情報を取り出す 叩き潰してやる チェックしておく 泊める ドレスアップする 出す 効果を出す 脱出する 提供する 飛ぶ(飛行機に乗る) 閉じこめる 試す 登録する 撮る 地回太を踏む 止める(とどめる) 体験してみる 博打をする 立ち上がってもらう 出逢う 付け加える 遠ざける(ハンドルネームを)つける 心をつかむ 住居の間口をもつ 手作りしていく 大切にしておく 誘いから逃れる のめり込む 殴りつける 入札する 治す 載せる 入会する キャリアを伸ばしていく 願う 作ったものを残す 仲良くする 流れに乗せる セリフを吐いてみる 救助隊に入る(画像) 引っ付ける 貧乏籤を引いて見る はねまわる 本題に入る 貼り付ける 貼る 皮肉を 弾く 把握する 羽を伸ばす ブレイクする 聞く 変更する 払う 人がましくふるまう 引っ込んでいる 省く 注目を引く 分析対象とする 持ち続ける お戻し願う 役割を任せる 満喫する 幕を引く 無縁でいる 元の状態に戻す 自分を良く見せる 管理ランクを設ける 曲がる 真ん中にもってくる 盛り上げる 本部屋へ戻る 身につけていただく 回す 休む 譲り渡す 辞める やせる 本髪を結う 養成しておく 体調をよくする リハビリする 楽をする 笑う 財産を渡す	1	191
合計		510

文型としては、通常の動詞のます形＋タイが最も多いが、その他、Vテミルが18件、Vテモラウ8、Vテイタダクが2、Vテアゲル2、Vテヤルが2、Vテオク8、Vテイルが5件、Vテイク4件であった。これは、ほとんどが通常の動詞のます形であったタガルとは対照的である。特にVテミルや授受表現が多いことがタイNの特徴である。

もう一つ、VタイNの動詞部分に特有なのは、上で挙げたVテイタダク2件のほか、(37)から(40)のように、「お願ひする」3件、「おっしゃる」2、「ご覧になる・拝見する・お目

にかかる・お願いいたす・お戻し願う」が各1件と、計12件の尊敬語や謙譲語が使われている点である。タガルには敬語は見られなかった。これはタガルNが直接相手に働きかけるのではない用法が多いのに対し、VタイNは直接相手に伝えようとする文で多く用いられているためであるといえるだろう。

- (37) おっしゃりたいことはわかります。
- (38) それが、二十年、三十年たって、「実は機密事項はこうでした、ご覧になりたい方は公文書館に来て下さい」という形になっているわけですね。
- (39) 「お父さん、お母さんにお願いしたいことがあります。(後略)」
- (40) いずれも自由の継続に関心のある人々に一読していただきたい書である。

3.3 統語的・表現的特徴

本稿では韓(2011)より抜粋した表1をもとに、タガルが用いられる統語的特徴をひとまず1から4としてまとめておく。

1. 対象となる人物の動作・動き、表情・態度・言葉などの外的な様子を表す表現を伴う文。
2. 原因や条件・逆接を表す文。
3. 程度や頻度を表す副詞的表現が共起する文。
4. 対象となる人物の「今」と「以前」の外的な様子を対比する文。

また、併せて韓(2010)で述べられているタガル・ガルの文脈的特徴についても以下のようにまとめておく。

- a. だだをこねたり、普通(周りの人)と違った様子や、大したことはないのにそのような振る舞いをしたりするなどの文脈で使われる文。
- b. 相手の知っている、対象となる人物に対しての情報と対象となる人物の実際の内面との食い違いがあるなどの文脈で使われる文。

では、以下、本調査でのデータを1から4に当てはめて分析するとともに、それ以外の統語的・表現的特徴も挙げ、それらの特徴とabの文脈的特徴との関係についても考察する。

1. 対象となる人物の動作・動き、表情・態度・言葉などの外的な様子を表す表現を伴う文。
これに該当する表現は、「進んで」「濃密に」「こわごわ」など19件、(41)(42)のような例があった。

- (41) 朝早くからテンション高く、暴れたがるねねちゃんを宥めて今日も元気に出発です！
- (42) うるさいほどに僕の世話をやきたがる母親のこと…。

2. 原因や条件・逆接を表す文。

(43) から (45) のような23件の用例が観察された。

(43) 錦織とかかわりたがるやついないから。

(44) 特に出たがるわけでもなければ、今月は室内での自由運動で充分でしょう。

(45) 料理が下手なのに作りたがる人ってどう思います？

3. 程度や頻度を表す副詞的表現が共起する文。

程度を表す表現は(46)(47)のように「ほど」6例や「まで」・「なにがなんでも」・「どうしても」が各2件、(48)(49)のように「なんでも」9件、「よく」2件、「いつでも」「いつも」「どこにでも」「いつまでも」「どんなときも」「万事」「何事によらず」「必ず」「なべて」「いずれは」が各1件で、全ての場合に当てはまること、頻度の高さを表す表現が22件と、非常に多く用いられていることがわかる。逆に「必ずしも」「めったに」と否定形と呼応する例もあった。そのほかには(50)(51)のように、「とかく」6件、「やっぱり」各1件など、多くにその傾向が当てはまることを表す副詞や、「やたら・やたらと／に」7件、「むやみに」「とにかく」各2件、「ひたすら」「何かと」「何かというと」「ややもすると」「あれやこれや」各1件など、頻度自体というよりその行動をすることが何かの傾向を表す表現や、(52)のように、同じ状況が続くことを表す「ばかり」も3件見られた。

(46) (前略) 最近は全体的に洗礼された、自然なスタイルが好まれ、顔の輪郭や体のスタイルまでも変えたがる人が増えているという。

(47) それに男はどうしても女性より早く外へ飛び出したがるものである。

(48) よく聞きたがる子だな。

(49) 「彼らは、日本人であるかぎり、いずれは帰りたいがるもの、帰るべきものと決めつけているんですよ (後略)。」

(50) とにかく「女は〇〇でなければならない」と枠にはめたがる上司に辟易しています。

(51) その結果がどうなるかはわかりませんが、むやみに世話をやきたがる人も出てくる。

(52) 情に流されず、筋道ばかり通したがる傾向があったのだ。

このように程度・頻度を表す表現が多く用いられているが、特にその程度の高さ・激しさや傾向の強さを表すものが多く見られることが特徴である。頻度の高さを表す表現が多いということは、それが一時的なものでなく、一般的・恒常的な傾向であることを物語っている。ガルは一般的な傾向・習慣を表しているとされているが、この点がタガルについても当てはまることが共起する表現からも裏付けられていることになる。

また、程度の高さ・激しさを表す表現を伴っているということは、それが、普通の程度を超えているということの意味するが、程度・頻度が高いという事実そのものだけでなく、(51)(52)のように、その対象や事態に対する話し手の評価、特に批判的なニュアンス・マイナスの評価を表すものが圧倒的に多いことがわかる。ちなみに、全290例中、126件、4割以上が何らの意味でマイナス・批判的な意味で使われている。つまり、単に傾向・習

慣を表すだけでなく、そこに表現者の何らかの評価、特にマイナスの評価が含意されているところがタガルの特徴であるといえよう。

4. 対象となる人物の「今」と「以前」の外的な様子を対比する文。

(53) から (54) のように、「最近は」「ふだんと異なる日に」などの副詞的表現のほか、(55) のように、文脈で表されている例もあった。このように対比は「外的な様子」に限らないことがわかる。

- (53) ふだんはとかく雑談に持ち込みたがるアレンが、今日は荘重に口数が少なく、「すぐ」「つぎ…つぎ…」と先を促すので (後略)
- (54) 最近は、男の子より女の子を産みたがる人も多い。
- (55) 凝り性で、やたら人を集めたがる川俣が、何がきっかけか知らないが、俳句の勉強会をつくると言い出したのだ。

以上韓 (2011) が指摘する統語的特徴について考察してきたが、単に様子や頻度・程度を示すというよりは、その激しさや程度の高さを表すものが多かったこと、また単に事実を伝えるだけでなく、そこに話し手の評価が含意され、その多くはマイナスの評価・批判であることが明らかになった。また、対比ももう少し広く捉える必要がある。そこで次に韓 (2011) に指摘のない統語的・表現的特徴を見てみよう。

5. 比喩を表す表現を伴う文

今回の調査では1から4に加え、(56) のように「みたい」「よう」という比喩を表す表現が8件であった。うち1件は (57) のように「まるで」を伴っていた。これらはある集団の特徴を際立たせ、類型化する働きを持っていると思われる。

- (56) 「(前略) あなたときたら、まるで邪魔をしたがる悪童みたいに振舞うのですからね！」
- (57) なかには、国士館力士にさわるみたいにからだにさわりたいがる人もいたようだ。

6. 対比を表す表現を伴う文

(58) から (62) のように、対比を表す表現も18例見られた。(58) では「やりたがること」と「やりたがらないこと」、(59) は「出たがらない子」「出たがる子」の対比である。さらに (60) は「ふだん」と「今日」、(61) は以前と現在の対比となり、これが4の普段・いつもと違うこと、普通と違うことへとつながっている。これも別のことと対比することによってあることの特徴・特性を際立たせる効果を持っているといえるであろう。このように、対比は韓 (2012) の指摘する以前や普段と現在との外的な様子の対比だけに限らないので、4とこの6はより広く「対比」として一つにまとめるべき項目であることになる。

- (58) 人民にはやりたがることが六つ、やりたがらないことが四つある。

- (59) うちには5匹いますが、出たがらない子や出たがる子色々です。
- (60) ふだんはとかく雑談に持ち込みたがるアレンが、今日は荘重に口数少なく、すぐ「つぎ…つぎ…」と先をうながすので、(後略)
- (61) 凝り性で、やたらに人を集めたがる川俣が、何がきっかけか知らないが、俳句の勉強会をつくると言い出したのだ。(再掲)

7. マイナスの意味やイメージを表す表現を伴う文

3. 2. でものべたように、タガルとともに用いられる動詞は(62)(63)のように語彙的にマイナスの意味を持つものや(64)のように何らかの意味で相手より上の立場であること示そうとするような動詞、暴力的・高圧的な意味を表す動詞など、約4割が否定的な意味合いで用いられていることが明らかになった。併せて後接する名詞も「奴、野獣、～ども、オヤジ」などが見られたほか、(65)のように、「いちゃもん、悪趣味な、ひけもしない、小うるさい、くどいほど」などのネガティブな表現を伴うものも少なくなかった。このように、タガルは何らかの意味でマイナスの評価を伴って用いられる場合が多いことがわかった。タイにはそのような傾向は見られなかった。

- (62) そういった部下の退社後の楽しみを妬んでか、ジャマをしたがる上司がいる。
- (63) 秘密主義のダンナとダンナの親のことですが、ダンナが何でも隠したがる性格です。
- (64) その結果かどうかはわかりませんが、むやみに世話を焼きたがる人も出てくる。
- (65) 今ではたいていのがくどいほど彼に友情を示し、中には根掘り葉掘り聞いたがる人たちもあったが、彼は下宿の所番地も教えずに不愛想に振舞った。

8. 動作主体のマーク

文末ではタイを三人称に用いることはできず、タガル等の別の形式を使う必要があるが、連体修飾の場合、タイの主体が第三者であっても用いることができる。しかし、(66)(67)は(66')(67')のように、名詞節の動詞と主節の動詞の主体が違う場合にタイを用いると、どちらの動作なのかがわかりにくくなる。ちなみに(66)の「見る」主体は省略されているが「子供」、「気がして」いるのは「母親」である。別の言い方をすればある行為を望む主体の傾向・特徴を外から眺め、評価する立場のもう一人の主体が存在することを表しているということもできるであろう。田中(2010)は(68)のように、タガルは一人称について述べる場合にも使うことがあると指摘しているが、これも食べたいと思っている対象が三人称であるために用いられたのではなく、食べたいと思っている主体と「買ってくれる」行為の主体であり、「わたし」が食べたいという気持ちを持っていることを外から眺めることができる「祖母」とが違う存在であることを明示することが重要な動機であることがわかる。

- (66) 乗り出して海を見たがる気がして
- (66') 乗り出して海を見たい気がして
- (67) 「ふむ…そうやってひとりきりになりたがることは、彼女の場合はよくある話だっ

て言ってたね？」

(67') 「ふむ…そうやってひとりきりになりたいことは、彼女の場合はよくある話だて言ってたね？」

(68) わたしがお菓子を食べたがると、祖母はすぐに買ってくれる

ちなみに、今回のデータでも通常第三者に用いられるとするタガルの主体が「私」などの一人称である例は(68)も含め4例と少なかったが、そのうちの2例はこの用法であった。ほかの2例は、第三者は介在しないが、自分自身を第三者的に分析・評価している場合であった。(69)の「って、ホントかあ？」に先立つ引用部分についてもこれが当てはまる。

(69) 私にとって「ブランド物」は、「偉くなりたがる自分」をそれ以上につけ上がらせないためのストッパーなのかもしれないって、ホントかあ？

また、(70)(71)のようにタガルの前の動詞が主体にも対象にも人を取る動詞である場合、連体修飾のあとの名詞が動作の主体なのか対象なのか曖昧になる。このような場合、被修飾名詞が主体である場合にはタガルが用いられている。

(70) 知りたがる人間をじらして遊ぶのは、人類共通の娯楽の一つじゃない。

(70') ?知りたい人間をじらして遊ぶのは、人類共通の娯楽の一つじゃない。

(71) 案内したがる運転手さんを押しとどめて、我々は車を降り、杉木立の中のゆるい坂を上がって石段を上った。

(71') ?案内したい運転手さんを押しとどめて、我々は車を降り、杉木立の中のゆるい坂を上がって石段を上った。

つまり、主体の違いを明確にすること、あるいは主体なのか対象なのかの曖昧さを回避することなど、タガルに先立つ動詞の主体をマークすることがタガルの重要な機能の一つであるといえるであろう。この点は、タイの場合、後接する名詞が主体である場合は1割程度であったのに対し、タガルの場合には主体である場合が半数近くであった理由の1つであろう。

9. 前接する動詞が無意志動詞である場合：派生的用法

タイと同様タガルは通常意志動詞とともに用いられるが、本調査では、(72)(73)のように無意志動詞とともに使われている例が5例観察された。これは、そのような性質をもっている、あるいはそのことが起こる傾向があることを表している。これはタイには見られない、タガル独特の用法である。このようなタガルは(73')のように文末に用いるとなんとなく座りが悪い印象となるが、「性質」「傾向」のような名詞とともに用いられると落ち着いた文になる。

- (72) 姿勢は始動から少しも変わらず、伸びも縮みもしない。みぞおちのところでかがみたがるものだから、注意すること。
- (73) (前略) エンピツやボールペンのように細長い形をしており、個体の決勝のように大部分の分子が規則正しく並びたがる性質を持っています。
- (73') ? (前略) エンピツやボールペンのように細長い形をしており、個体の決勝のように大部分の分子が規則正しく並びたがる。
- (74) (前略) 予断から本人訴訟を嫌い、馬鹿にしたがる裁判所の心証を悪くしただろうし、これでは自分で土俵に上がりながら勝負を捨てていたようなもので(後略)
- (75) 「小泉首相はもうダメだと」と決めつけたがるマスコミまでまきこんで、カッコよさを〈再生産〉するしかけをつくってきたのだ。

さらに、(74)(75)の例を見てみると、意志動詞とともに用いられるタガルについても、希望・願望を表すものだけでなく、恒常的な志向・性質に近い意味を持つものもあることがわかる。つまり、タイが比較的一時的な希望・願望を表すのに対し、タガルは希望・願望だけでなくそれが長期的・恒常的な状態となり、主体の特徴・傾向という意味になるという連続性を示しているといえるであろう。

なお、上記のaの「だだをこねる」「大したことはないのにそのような振る舞いをしたりする」などは1と3の、bの対象となる人物についての情報と対象となる人物の実際の内面との食い違いがある場合については、4及び6の統語的特徴が担っているものであるといえる。また、マイナスの評価を含むということで、7ともかかわってくる。

一方タイの場合、1の様子を表す表現が、「ありありと」「ぐっと」「二つ返事で」「艶然と」「全身で」「必死で」「しっぽりと」「ゆっくりと」「わざわざ」の計9件、2は理由を表す表現と逆接の「のに」が各2件、3が「たくさん」6件、4は「現在のみ」「まだ小さいうちは」「とりあえず」の3件と、タガルに見られたような統語的・表現的特徴を持つものは極めて少なく、全ての場合に当てはまることを表す表現が「どうしても」6、「だれもが」2、「だれでも」・「人は」「いつでも」「いつも」が各1件、同じ好況が続くことを表す表現は見られなかった。評価を表すものも「どうせ」「当然」など、少なかった。一方「すぐに」「今すぐにでも」「すぐ」が合わせて4件、「そろそろ」「なんとか」「ぜひとも」「一生に一度」「一分でも長く」が各1件と、その行為を早く、あるいは長く行いたいという希望を表す表現が9件で、比較的多かった。しかし、タイNが全部で510例であることを考えると、いずれも少数であるといえる。

タガルNがある傾向を持つことや様子・程度の激しさ・強さを表す表現や事実だけではなく話し手の評価を含む表現や比喻・対比、マイナスの意味を表す表現とともに用いられる頻度が高いのに比べ、タイNは、顕著な統語的特徴は見られず、用法としても本来の語彙の意味以上のニュアンスや用法が見られないことは、両者の機能の大きな違いを示しているといえるであろう。

表8 タガルの統語的意味特徴

意味・用法	共起する表現の例
1. 対象となる人物の動作・動き、表情・態度・言葉などの外的な様子を表す表現を伴う文	進んで2 濃密に 細部にわたり きめ細かく 気軽に こごわ 直に 高く 偉そうに 一生懸命に 衝動的 に テンション高く 調子に乗って 勝手に うるさい ほどに 無理に とかく むやみに 各1 他
2. 原因や条件・逆接を表す文	から9 のに5 なので・なんで3 ので ば 各2 と ながら 各1 他
3. 程度や頻度を表す副詞的表現が共起する文	ほど6 なんでも4 よく までも まだが いつも い つまでも どこまでも あれやこれや どんなときも とかく 万事 各1 他
4. 対象となる人物の「今」と「以前」の外的な様子を対比する文	最近 は 暗くて怖い時には ふだんと異なる日に 各1 他
5. 比喩を表す表現を伴う文	よう2 みたい2 まるで1
6. 対比を表す表現を伴う文	最近 は 暗くて怖い時には ふだんと異なる日に ふだ んは VたがらないN その他
7. マイナスの意味やイメージを表す表現を伴う文	奴 野獣 いちゃもん ども 素朴な 悪趣味な 猥立 いませぬ 嫌い ひけもしない たった一つの 付き合 いきれぬ テレビなんか など 小うるさいことを 易 きに流れて、無意味な 各1 他
8. 人称のマーク	
9. 前接する動詞が無意志動詞である場合	並ぶ 弱気になる 似る 記憶を曲げる 他

3. 4 互換性

Vタガルのうち、Vタイと置き換えられるものは290件中132、45.5%と半数近くあった。置き換えられないものについては、(76) 願望が強く外に表れている場合や(77) のような普通とは違う様子である場合、(78) のように一時的な希望ではなく、継続的・反復的な希望である場合や(79) のように一般的な傾向であることを伝えたい場合、(80) のように願望の実現が困難で、簡単にはその願いが通らない場合や(81) から(83) のように無意志動詞など、タガルが願望ではなく性質・傾向を表す場合などであった。

- (76) 檻から出たがる野獣のように、何かレアの内部でわめいた。
- (77) ふだんはとかく雑談に持ち込みたがるアレンが、今日は荘重に口数少なく、すぐ「つぎ…つぎ…」と先をうながすで、(後略)
- (78) その後も、しきりに、様子をききたがる与兵衛へ、「くどいのう。わしが大丈夫だというたら大丈夫じゃ。安心してねむれ (後略)」
- (79) 世の中には大変お節介好きの人がいて、なんでも他人のことに干渉し、口出ししたがる人がいますが、最初は有難がられたとしても、次第にうるさがられようになります。
- (80) ひけもしないヴァイオリンを演奏したがる人にもたったひとつだけいいところがある。

- (81) 連句の連続においてもある一句がその前句よりも前々句に似たがる傾向があります
- (82) 何でも人柄で判断したがる人って多いですよ。
- (83) 一般におれは男だと言いたがるタイプの人間ほど、嫉妬深く、意地悪で、利己主義、心が狭い、など、悪い意味で女性的な性格の（後略）

また、(84)のように文中に2つの主体が存在する場合に主体の違いを明確にしたり、(85)のようにタガルのあとの名詞が対象ではなく動作主であることを示したりする場合にもタイに置き換えにくい。このように、名詞に先立つタガルは文末のタガルにはない特別な機能を担って用いられていることがわかる。

- (84) 結婚したがる男って独占欲が強い気がする。
- (85) 私隠栖したがる男にも興味ありませんの。

一方、Vタイ510件のうち、タガルに置き換え可能なものは510件中37件、7.3%のみであった。このうち、(86)から(89)のように主体が2つある場合にもタイを用いる例もあったが、これはタイの後の名詞が主体ではなく対象であるためタイも可能となっていると思われる。また、外的な様子の表現、「だれでも」「たくさん」等、多くの人に当てはまることを表す表現や理由・逆接などの副詞的表現を伴っているものが16件と、4割を占めている。

- (86) ただ、なぜ「河童」と改名したか、これだけは誰でも知りたいことでしょうから、ぜひ話してください。
- (87) リサのリクエストは白浜アドベンチャーワールドで双子のパンダが見たいという事やった。ぺんぎんもかわいいなあゆうてた。別に海外とかでもよかったけどリサの行きたい所に行くのが一番や。
- (88) 中学・高校では、いったん社会に出たいと思う子には職業に学習として付くことを認める。つまり今やりたいことをとりあえずやらせてみる、ということだ。
- (89) 「でも、子供が生まれたばかりなのに。彼の行きたい場所が、どんな危険なところかわかってるんでしょう」

これと重複するが、意味的にそれが一般的な傾向であることを表すものが14件、強い希望・願望を持っていることを表すものが7件、次いで通常とは違う状況を表しているものが6件、対比が4件、人の性質を表しているものが2件であった。また、9例は批判的ニュアンスを帯びていることがわかる。

置き換えられないものについては、一般的な説明やその実現を妨げる状況がない場合であった。

以上のことから、VタガルはVタイを用いることが可能な場合も多いが、タイにはないタガルの表現性ゆえに敢えてタガルが選択されていることがわかる。一方、タイについて

は、一般的な傾向であること、強い希望・願望を持っていることを表すもの、通常とは違う状況や対比、何らかの人の性質を表している場合、特にそれが批判的ニュアンスを帯びている場合のみにタガルに置き換えができるということがわかった。これは、タイに比べ、タガルのほうがより制約が強いということの意味する。

文末のタガルの選択はタイが第三者に使えないという人称の制約によるものが大きいから、名詞の前に用いられる場合には第三者であってもタイが可能となる場合があることから、複数の動詞の動作主を区別するという動機で選択されるなど、人称を示す以上の機能・表現意図をもって選択される場合が圧倒的に多いことがわかった。

3.5 まとめ

以上タガルに先立つ動詞やタガルの後の名詞、統語的特徴や機能について考察した。名詞の意味では、[主体] が約半数で最も多く、次いで[その他] が21%、[内容] が19%とそれぞれ2割前後であった。[主体] の中では「人」を表すものが4割を超えたほか、特定の職業や社会的集団・属性を表す名詞が24件など、何らかのグループ・集団を表す名詞がほとんどで、タガルによって、そのグループや組織に共通して当てはまる特性について言及している場合が多いことがわかった。以上のことから、タガルの主な用法は主体に何らかの特徴的な修飾を加えることであることが明らかになった。

[その他] については、半数以上が「もの」「モノ」で、その多くが「本来の姿、一般的な傾向」という意味を表すタガルモノダであった。これは全タガルNの1割以上であり、特徴づけ・類型化がタガルの非常に重要な用法であることもわかった。[内容] については、一時的な「気持ち」などの名詞が多く用いられているとされる感情形容詞とは異なり、傾向や気質など、長期的・恒常的性質を表すNが多く、この点でタガルが感情形容詞とは違う性質を持っていることもわかった。

一方タイは[対象] として用いられている場合が約半数、そのうちの4割以上が「こと」、次いで「もの」が約1割となっている。

動詞については、タガルでは「やる」「なる」「する」のように頻度の高い動詞はあったが、1回しか用いられていない動詞が半数以上で、タガルと多く用いられる特別な動詞があるというわけではないが、全体としてマイナスの意味を持つ動詞やコンテクストとしてネガティブなもの、何らかの意味で相手より上の立場であること示そうとするようなものなど、否定的な意味合いの述部が全体の約4割を占めている。

一方タイは、「言う」「やる」「知る」など、非常に頻度の高い動詞もあったが、タガルに見られたようなマイナスの意味の表現は少なく、単純に動作を表すニュートラルなものが大半で、機能として多くは指示や情報提供で使われていることが多いことがわかった。このためタイの主体も一人称ではなく不特定の人である場合が圧倒的に多かった。

また、タガルの統語的・表現的特徴としては、以下の1から8の特徴が見られた。

1. 対象となる人物の動作・動き、表情・態度・言葉などの外的な様子を表す表現を伴う文
2. 原因や条件・逆接を表す文

3. 程度や頻度を表す副詞的表現が共起する文
4. 対比を表す表現を伴う文
5. 比喩を表す表現を伴う文
6. マイナスの意味やイメージを表す表現を伴う文
7. 動作主体のマーク
8. 無意志動詞を用いた文

このようにタガルNが主に主体がある傾向を持つことや様子・程度の激しさ・強さを表す表現や事実だけではなく話し手の評価を含む表現とともに用いられる頻度が高いのに対し、タイNは、本来の語彙的以上のニュアンスや用法は見られなかった。また、タガルが人称の表示として用いられることや無意志動詞を用いて恒常的な傾向を表す用法もあることがわかった。これらはが通常のタガルと連続性を持つものであることも明らかになった。

更に互換性ではVタガルはVタイを用いることが可能な場合も多いが、タイにはないタガルの表現性ゆえに敢えてタガルが選択されているのに対し、タイについては、一般的な傾向であること、強い希望・願望を持っていることを表すもの、通常とは違う状況や対比、何らかの人の性質を表している場合、特にそれが批判的ニュアンスを帯びている場合にのみタガルに置き換え可能であることがわかった。

4 考察 —タイの用法と機能—

これまで用いられる動詞やタガルに後接する名詞、統語的・表現的特徴や互換性を考察してきたが、それでは表現者はどんな意図でタガルを選択し、それがどのような意味・機能を担って使われているのだろうか。

①特徴づけ・類型化による評価

(90) のように「こういう」「ものだ」「人」「どこでも」「多い」などを用いて、タガル主体について一般化やある種の類型や動向を示す用法である。中には(91)(92)のようにニュートラルなもの、好意的な評価も少数ながらあるが、多くはありがちな迷惑な人・行為などのイメージから特徴づけ・類型化することで批判的に述べるものである。タガルの後の名詞が主体である場合が圧倒的に多いこと、用いられている動詞や状況もマイナスの意味を持つものが多いこともそれを裏付けている。(93) のように面白おかしく、あるいは軽蔑の念を込められて語られることも多い。相手の方も、自分の知っている人や経験と結び付けて「ああ、そういう人いるよね」という感じで揶揄するような受け止め方をする。つまり、そこで述べられている行為に対する願望・志向を表すことだけではなく、そんなことを望むような人やそんな志向を持つタイプの人に共通する特徴を捉え、こういうことをするようなこういう人としての評価・批判を示す機能である。

(90) 何で作家本人の顔を見たがる人が多いんでしょうか？

(91) (前略) リカードは見た目にも話しぶりにも華のある子でした。記事にしたがる人がいて当然です。

- (92) よく勉強している医者ほど、よく説明したがるものである。
- (93) ゴルフの練習場でへったくそなスイングしているくせにやたらと人のスイングにいちゃもんつけて教えたがるオヤジがいます。

この用法は、名詞が主体である場合が圧倒的に多いが、少数ながら(94)(95)のように対象を表すものもあった。前者の場合は、「武道家を気取る人」が口にしそうな例えば自分をとことん追い込むようなストイックな言葉、やけにカッコいい言葉、後者の場合には女性が見たがるような特徴を持った作品、例えばロマンチックな物、あるいは逆に意外にハードな物などが思い浮かぶ。そしてそれは結果として主体である「武道家」や「女」を特徴づけ、類型化することになる。

- (94) 「わたしは、自分を斬っているんです」武道家を気取る者がよく口にしたがる陳腐な台詞。
- (95) またこのような作品は女が見たがるものなのではないでしょうか^{注3}

また、「ようだ」「みたいだ」などの比喩の用法については、類似の例を挙げることで様子がわかりやすくなるという機能を持つ。(96)では、「野獣」という言葉を使うことで、その感情の強さ、激しさが表現されている。さらに(97)では、胡散臭い、あるいはもっともらしい、(98)であれば子供っぽい、ひねくれているなど、あることの様子・イメージを鮮明にすることで特徴を際立たせ、類型化を図っていることがわかる。つまりこの比喩も特徴づけ・類型化の一つの手段として使われる場合があることになる。

- (96) 檻からでたがる野獣のように、何かがレアの内部でわめいた。
- (97) 私立探偵がにせの名刺に刷りたがる会社名みたいだ。
- (98) (前略)あなたときたら、まるで邪魔したがる悪童みたいに振る舞うのですからね!

もう一つの用法は対比であるが、ほかのものとの対比により、普通の人とは違うことや主体によって違うことを強調したり、あるいは(99)のように同じ主体であっても2つの側面があることや以前や普段・いつもと違うこと、変化を浮き彫りにしたりすることができる。

- (99) 最初は男は偉そうに言いたがるものです。

ところで、タガルが類型化を表すとすると、一見それは上で述べたaの普通(周りの人)と違った様子であることや、bの対象となる人物に対する情報と実際の内面との食い違いがあることを表すという点と矛盾するように思われるかもしれない。しかし、類型化は一般化のみではなく、ある集団や個人に特有な性格・行動を述べることで、その人や集団、あるいはそれらのその時の状態の特異性を際立たせる手段となる場合もある。これが、タガルが一般的な傾向を表しながら、普通と違うことを表す場合にも使われる理由であろう。

それによって、意外だとか、らしくない、変だというような驚きや疑問、批判などの評価を表すことが可能になる。(100)のように、普通と違う例を挙げた上でその存在を否定することで、通常とは違うことを表している場合もある。

(100) それはそうでしょう、『火あぶり』だの『土左衛門』だのと悪趣味な献立を注文したがる人はいません。

②実現の難しさ、強い継続的な希望・志向に対する評価

タガルは外的な様子や「いつでも」「なんでも」などの程度・頻度の高さ、勢いや繰り返しを表す副詞等とともに用いられることで、動作主が強い願望を持っていることを表す。それは(101)(102)のように、時には難しい状況、実現を妨げたり反対したりする立場や状況があることも示している。そのような願望は一時的なものではなく、継続的・反復的となる。

(101) (前略) 学校へ行くのをやめろと言ったにもかかわらず学校へ行きたがるわけですね。

(102) 「(前略) ところがそれを阻止したがる役人どもに邪魔をされて、身動きがとれなくなっている」

そのような継続的な強い願望は場合によっては(103)から(106)のように「思慮が足りない」、「幼稚だ」、「極端だ」など、意志やコントロールの欠如に対する非難にもつながる。それが面倒・厄介を表すことにもなる。このような強い感情・志向をコントロールできないことへのネガティブな評価がタガルNのもう一つの機能である。

(103) 姐さんが白い夜光虫を、何が何でも手に入れたがる気持ちも、わからんじゃないな。

(104) 餌のゆらめくを見ると、すぐにそれと関わりを持ちたがる意志の弱いものなのだ。

(105) 私にとってブランド物は、「偉くなりたがる自分をそれ以上上げ上がらせないためのストッパーなのかもしれない…って」、ホントかあ？

(106) (前略) 昼は仕事を持ち、夜は主婦、劇団では女優の他に雑事一切を引き受けて、ともすれば勝手に飛びたがる年のはなれたワガママ亭主を、ある時は手綱を引きしめ、ある時は鞭を振るいながら (後略)

③動作主体のマーク

(107)のように主体の違いを明確にすること、あるいは主体なのか対象なのかの曖昧さを回避することなど、タガルに先立つ動詞の主体をマークすることがタガルの重要な機能の一つであるといえるであろう。名詞の意味関係のうち、主体が半数であることもこのことを裏付けている。

(107) —とうとう、ここまでたどりついたか。心理描写したがる小説家の悪い癖をあえ

て出せば、彼はこのように感じていたのではなかったか。

以上タガルNの用法を見てきたが、一般的傾向を表すことはタガルが文末に来た際にも当てはまる特徴である。ではなぜ連体修飾で用いられた際に、類型化や実現の難しさ、強い継続的な希望・志向に対する評価という文末と違う特徴が表れるのであろうか。

形容詞は性質・特徴など、人やものの属性を表す場合と、人の感覚・感情を表す場合がある。前者は属性形容詞、後者は感情形容詞であるが、西尾（1972）は「感情形容詞が連体修飾の位置を占めるばあいは、もっと属性表現になりやすいようである」と述べている。タガルもこれに準ずる形で、連体修飾で属性としての意味合いが強くなり、さらにタガッテイルではなくタガルを選択されることによって、ある対象の傾向や特徴をその対象の属性と捉え、しかも普通と違う、程度・頻度が高さや繰り返し、コントロールを超えている、マイナスの表現が多く用いられる、等から、批判的・マイナスの意味を帯びて用いられる場合が多いと考えられる。(108)も「やたら」という頻度の高さを批判的に述べる表現を伴い、「好き好き」と安易に言うような人への批判が込められている。

(108) やたらに好き好き言いたがる人より、いざ好きって言われたとき信用できて言われた側は嬉しいと思います。

さらに、連体修飾等で2つの述語が生ずるため、その主体が異なることを示したり、タガルの後の名詞が人で、それが動作の主体か対象いずれの解釈も成り立つ場合に、それが主体であることを示したりする機能があることも名詞に先立つ用法であるが故に生ずる機能である。

一方タイNの方は、客観的な手順などの説明に多い。また、タガルが「いつも」「誰でも」のようにどのような状況でもそのような事態が起こることを表す表現が多いのに対し、タイは一度だけ・その時だけ、あるいはその希望を妨げるもの、困難が特でない希望を表している場合が多く、否定的・批判的なニュアンスを持っているものも少ない。情報提供するために直接情報の受け手をめがけて発信されたものが多く、敬語や授受表現などと共起する場合も多い。また、この受け手が特定の個人ではなく、一般の対象に対する説明が多いのもタイNの特徴である。それ以外は、「たいものだ」「たいところだ」とともに用いられるなど、特に実現が難しいという前提のない話し手の希望・願望を表していることがわかった。

このように考えてみると、冒頭で挙げた(109)の座りの悪さの原因が見えてくる。一応「自然が美しく、静かな町で」の部分が多くの人が住みたいと思う理由を表していることから、韓の述べる統語的要件は満たしており、タガルを文末に用いた(109')は自然な文となる。しかし、連体修飾で用いた場合、「自然が美しく、静かな町」に住みたいと思うのはごく普通のことであり、そのような町や住みたいと思う人に共通の属性・特徴を典型的に描いたり、こだわりに評価を加えたりする理由・必然性がなく、わざわざタガルを用いるのが不自然であるためであると思われる。このように、(109)と(109')で適切性の判断が違っても、名詞修飾の形で用いられたタガルが文末等で用いられるタガルと異なっ

た性質・制約を持つことを裏付けることになる。

- (109) ○○市は自然が美しく、静かな町で、多くの人たちが住みたがる町としてよく知られています。(再掲)
- (109') ○○市は自然が美しく、静かな町で、多くの人たちが住みたがる。

ちなみにgoogleで検索した「住みたがるN」の用例には(110)から(114)のようなものがあつた。これらの場合どれも、ある種の人たちが住みたいと思うような地域の類型やそこに住みたいと思うような人のタイプや共通のイメージ・傾向がすぐ思い浮かぶ。例えば(111)であれば「上品ぶつた人」とか「教育熱心」、(112)であれば「泥臭い田舎者」とか「いつまでたってもあか抜けない人」といったところであり、そのこだわりに対する話し手の評価が込められた表現となっている。

- (110) 実家の近くに住みたがる女性は嫌われる。全国仲人連合会大阪本部所(京橋)(教えてgooより)
- (111) 埼玉県川口市、さいたま市で、お金持ちが住むところ、住みたがるエリアはどこでしょうか…?(同上)
- (112) 上京民が何となく憧れて住みたがる「万年学生街」(WEB Ver. 首都圏住みたくない街下北沢 <https://t.tokyodeep.info/shimokitazawa/>より)
- (113) タワーマンションの最上階に住みたがる人
1. 金持ちになるとステータスを求めなくなる理由とは?(勝負事<http://www.fragblast11.org/top-floor-of-tower-apartment/>より)
- (114) 数ある私鉄沿線の中でブランド化に成功している東急東横線、田園都市線、小田急線などの各沿線にはそのブランドへの憧れだけで住みたがる頭のおめでたい小金持ちがいるものだが、(後略)(東急社長が語る田園都市線の混雑解消への道「腰を据えた対策を」、livedoor's NEWS, 2018年9月10日)

その他の動詞では、教えて!gooに以下の(115)から(118)のような例があつた。

- (115) 必要もないのに、いろいろな薬を飲むたがる薬マニアの方もいますから、強い薬が出るのは、かなり通院して、弱めや普通の効き目では不足と判断してからでしょう。(原文のママ)
- (116) 逢ってすぐに、ヤリたがる馬鹿男よりよっぽどいいと思いますが(笑)
- (117) お気の毒ですが、「うまい汁を吸い」たがる卑劣な人間はいるものです。
- (118) あなたは、「普通」とか「一般的」「常識的」ではなくて、「人とは違うこと」をやるたがるタイプの様で。(原文のママ)

以上、VタガルNの意味や機能、VタイNとの違いについて考察してきたが、タガルが第三者の場合に制約なしに用いられるわけではないこと、特に連体修飾など、名詞の前で

用いられる場合には文末で用いられる場合とは異なった特徴や制約を帯びていること、またタイも連体修飾で用いられる場合には通常の一人称の願望ではなく、指示・情報提供などの機能を持った文で一人称以外の不特定の人を主体として広く使われることなど、非常に複雑で、上級の学習者であっても習得が困難な項目であることがあらためて確認された。

5 おわりに

本稿では、「中納言日本語書き言葉コーパス」で収集した用例を中心に、後接する名詞を伴って用いられるタガルの特徴を前接する動詞や後接する名詞の特徴や意味・機能という観点から考察した。その結果、タガルNは、単にタガルの主体が第三者である場合に使われるのではなく、①主体の持つ特徴・傾向を際立たせることによる特徴づけ・類型化を通じた評価、②実現の難しい事柄に対する強い継続的希望・志向に対する評価及び③主体のマーク、などの機能を有し、④無意志動詞を用いて主体の恒常的な傾向を表すという派生的な用法を持つことなどが明らかになった。

そしてそれは、Nが対象を表す場合が多く、一人称ではなく、不特定の人を主体として、指示や説明の機能を表す文に多く用いられるタイNとは大きな違いがあることもわかった。

ただし、(109)が不自然であるにもかかわらず、否定形を用いた(119)は不自然ではない。これはVタガラナイNがVタガルNとはまた違う振り舞いをすることを示唆している。また、本稿で使用したのは書き言葉コーパスであるが、話し言葉についても検討する必要がある。

(119) 特に婦人科やりハビリなどのサービスが受けなくなったら、○○町に住みたがる人々はもうなくなってしまうだろうし、これから産まれてくる赤ちゃんやりハビリが必要なお年寄りに思い及ばないくらいの被害が思われます。【K005】 中位 (再掲)

このような点を踏まえ、タガルの用法について考察を深めるとともに、日本語教育での適切な指導時期や方法についても検討を進めていくことが筆者の今後の課題である。

[注]

1. 下線、韓。
2. 特に記載のない例文は国立国語研究所「中納言日本語書き言葉コーパス」より。下線・注は筆者。
3. この文だけだと一般化のモノダとも受け取れるが、文脈から「物」=作品であることがわかる。

[参考文献]

韓金柱 (2010) 『日本語教育における「～がる」の扱われ方の現状と課題』「第8回日本語教育研究集会予稿集」 pp.22-25

——— (2011) 「現代日本語における「～がる」の統語的な特徴」 「第9回日本語教育研

究集会予稿集」 pp.6-9

—— (2012)「現代日本語における「～がる」の統語的な特徴」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』 No.8 pp.153-164

グループ・ジャマシイ編著 (1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

白川博之監修 (2001)「§ 41. 接辞」『中上級を教える人のための日本文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

田中稔子 (2001)『田中稔子の日本語の文法—教師の質問に答えます—』福沢英敏

寺村秀夫 (1975)「連体修飾のシンタクスと意味 —その1—」『日本語・日本文化』4号大坂外国語大学留学生別科 pp.71-119

西尾寅弥 (1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』(国立国語研究所報告44) 秀英出版

村上佳恵 (2014)「連体修飾用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係 —うれしい人、うれしい話、うれしい悲鳴—」『学習院大学国語国文学会誌』57 pp.45-56

On the Usages of V-*tagaru* Preceding Nouns
— though comparison to V-*tai* N —

KUMAI, Hiroko

This paper analyzes the usages and functions of V-*tagaru* N, in comparison with V-*tai* N. It is found that half of the Ns after *tagaru* are the agents of *tagaru*, and that the sentences are often accompanied with negative expressions, expressions of excessive states, degrees or frequency, or those of general tendency, contrast or metaphor and imply ① the speakers' evaluation towards the agents, through distinction and typification by highlighting the characteristics and tendencies of them, ② the speakers' evaluation towards the impertinent or continuous desire for something difficult or feasible or, have ③ a function as a subject marking, and ④ derivational usage of a constant tendency of the agents, accompanying non-volitional verbs. On the other hand, in V-*tai* N, most of the Ns are the objects and there are no implications or evaluations involved other than its original meaning as desire. They are often used in such sentences as having functions of direction or information giving towards unspecified targets rather than expressing the 1st person's desire. In addition, the fact that less than 10% of *tai* used in this structure can be replaced by *tagaru*, whereas half of the *tagaru* can replace *tai* shows that the restrictions of the usages of *tagaru* are quite strict.